学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
東京都豊島区目白
1丁目5番1号
電話(986)0221内線260

発行・編集責任者
平居利朗

送料共年間200円

二面　長沼判決を考える(下)
三面　小選挙区法案(三)
四面　反体制レポート
文芸部
大学祭
キャンパスNOW!?

第四回 大学祭開かる

田中角政教授が否決された第6回の参団総（10月8日・北10・1）

大実委「全学生による実現を」

だが例年通りのサークル祭 一般学生の参加が課題

第四回大学祭は去る十月二日から五日まで四日間行われ、昨年度の「模擬店入り」のような事もおこり、スムーズに進行しなかった。既報の通り、今年度の時期にスムーズに進行しなかった。既報の通り、今年度の時期にスムーズに進行しなかった。既報の通り、今年度の時期にス

小選挙区法案 問題点を探る（3）

本質的粉砕に向けて 合法の下での支配を憂う

国会・政党では小選挙区法案を契機に、国家権力の政府への向っている。その時代、日本の政府・自民党の勢力は、日本をも決して無縁ではいられない。このような政治家の動きをさせないための法的、それからこの法案の基本的問題は、被選挙権を用に関係する為の手段を獲得する。家族制度国家を、資本による労働力の搾取の実現である。そして、この小選挙区法案自体は、小選挙区法案を解釈しようとした。

反動的 国実施例 韓

国会では、一九六二年のクーデターは、「既成の事実」の容認、その後の「憲法」を国民に押しつけるための手段を獲得する。家族制度国家を、資本による労働力の搾取の実現である。そして、この小選挙区法案自体は、小選挙区法案を解釈しようとした。

それにもかかわらず七二年の憲法は、自民党がつくったのだ。憲法は、国民の意思によってつくられるものである。国民の意思は、国会議員選挙を通じて、国会議員の選挙区の区割りの変更

反体制レポート

あらゆる束縛からの解放を！

今回は、前回の第一、保安処分新設粉砕に関して、保安処分の歴史的展開を主に述べてきたが、今年は、前回、保安処分の法的展開を主に述べてきたが、今年は、前回、保安処分の法的展開を主に述べてきたが、今年は、前回、保安処分の法

オピニオン・ショップ・めんだ

大学祭

サークル「日常活動の集約の場に」

一般学生「サークルだけのもの？」

サークル

秋、これまた大学祭の季節。自分の記憶の中、キャンパスの中もいろいろ騒がしい日々が続いたようです。そこでの大学祭関係の人々に聞いてみた。

一般問題のもう一つとしては、大学祭が構造とチェーンワークとして大学祭の中、今まで続けばよいのか、何かを一般問題のことしては、今まで努力の結果、考えの誤りまで気付いたなかで、「問題のもの」として、「問題の事柄の論」として見ている。

また、論議ということに対しても、「そこに大学祭があるから」論議するべきの理由づけのもの、大学祭に対する意義